

## 「パウロ、諸教会を巡る」

2016年08月09日

使徒言行録 20 章 1 節～6 節。この騒動が収まった後、パウロは弟子たちを呼び集めて励まし、別れを告げてからマケドニア州へと出発した。そして、この地方を巡り歩き、言葉を尽くして人々を励ましながら、ギリシアに来て、そこで三か月を過ごした。パウロは、シリア州に向かって船出しようとしていたとき、彼に対するユダヤ人の陰謀があったので、マケドニア州を通して帰ることにした。同行した者は、ピロの子でベレア出身のソパトロ、テサロニケのアリスタルコとセクンド、デルベのガイオ、テモテ、それにアジア州出身のティキコとトロフィモであった。この人たちは、先に出発してトロアスでわたしたちを待っていたが、わたしたちは、除酵祭の後フィリピから船出し、五日でトロアスに来て彼らと落ち合い、七日間そこに滞在した。

アルテミス神殿の模型を造っていた銀細工師たちが起こした騒動は、書記官の調停によって収まった。パウロはエフェソ宣教に区切りをつけ、いよいよエルサレム教会への支援金を届ける時が来たと思った。弟子たちを集めて信仰を励まし、別れを告げ、マケドニア州に向かって旅立った。目指した教会はフィリピ、テサロニケ、ベレアなどであろう。これらの教会を巡り歩き、言葉を尽くして励ました。支援金問題については触れていないが、献金を預ったのではないか。それから、ギリシアに向かった。ギリシアとはコリント教会であろう。このコリントで、パウロは最後の手紙になったローマ書を書いている。ローマ書 15 章 25 節と 28 節で「しかし今は、聖なる者たちに仕えるためにエルサレムへ行きます。マケドニア州とアカイア州の人々が、エルサレムの聖なる者たちの中の貧しい人々を援助することに喜んで同意したからです。… それで、わたしはこのことを済ませてから、つまり、募金の成果を確実に手渡した後、あなたがたのところを経てイスパニアに行きます」と書いている。今はコリントにいますが、エルサレム教会に支援金を届けてから、あなた方のいるローマに行き、それから、あなた方に送り出されイスパニアに行きたいと書いている。パウロの宣教への思いは留まることなく、地の果てまでを宣教地としている。

コリントに3ヶ月ほど滞在し、近道のシリア州に向かって船出しようとしたが、パウロに対するユダヤ教徒たちの陰謀を耳にしたので、再度、陸路マケドニア州に逃れ、そちらから海路でエルサレムに行くことにした。同行した弟子たちは、ピロの子でベレア出身のソパトロ、テサロニケのアリスタルコとセクンド、デルベのガイオ、テモテ、それにアジア州出身のティキコとトロフィモの7人であった。ソパトロはローマ書 16 章 21 節のソシパトロであろうか。アリスタリコとガイオはエフェソで暴動に巻き込まれた人である。テモテはパウロの忠実な弟子である。ティキコはパウロ書簡に4回登場している。トロフィモはエフェソ出身で、パウロが異邦人の彼をエルサレム神殿に引き入れたと疑われた人である。パウロは常に弟子たちを同行させている。彼らを先に出発させ、トルコの東海岸のトロアスで落ち合うことにした。「『わたしたちは』、『除酵祭』の後フィリピから船出し」、5日目にトロアスで合流したと記している。「わたしたち」という「我ら章句」で書かれている。先発させた7人以外に、同行する弟子がいたということである。それが誰であるかは分からない。「除酵祭」と書かれている。彼らはユダヤ教の暦を守り、ユダヤ教を色濃く残していたのである。パウロたちはトロアスで落ち合い、この地に7日間滞在した。ユダヤ教徒たちから逃れ、しばし、旅の疲れを癒す時を持ったのであろう。